

「第23回愛知県長良川河口堰最適運用検討委員会」に関する  
傍聴者の御意見と傍聴者の質問に対する回答など

氏名	御意見
田村 くに江	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地震時の舟運開門についても検討すべきでは。</li> <li>・ 窒素、リンについても調査すべきでは。</li> </ul>
高木 邦子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 愛知県は毎年河口堰の維持費を負担していると思いますが、その負担金について減らしてために国と協議をされているのでしょうか。 もし国と協議をする場があれば、河口堰の運用の仕方等も含めた改善策等、愛知県ができることを国に要望して行ってほしいです。</li> <li>・ 愛知県漁連とも連携をとってほしいです。</li> <li>・ 釜山市との交流には、愛知ターゲットもいれて交流を深めてほしい。</li> </ul>
近藤 ゆり子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 何人かの委員からも出ていたことだが、「長良川河口堰建設で、河口堰上流部がいかにかダメになったか」だけでは、河口堰開門への世論にはなりにくい。(河口堰本格運用から30年が経った。長良川近傍で育った中高年者しか「河口堰建設以前の良き長良川」は知らない。 伊勢湾を視野に入れた流域全体を見渡す観点、ネイチャーポジティブの観点をもっと取り入れるべき。</li> <li>・ 「木曾川水系連絡導水路」という愚を止めることも重要。</li> <li>・ 「徳山ダムの水を愛知県・名古屋市が必要とする」ことはありえないことは明らか(最適運用委員会での利水に関する検討で明らか。「水は余っている」) 徳山ダム計画は1956年に構想が浮上した後、1976年に水資源開発公団に事業継承された「水資源(都市用水)開発施設」である。高度成長期の都市用水需要の伸びを背景に計画が押し進められたが、「高度成長」は1973年に終わった。 半世紀も経って、なお高度成長期に計画され建設された徳山ダムの水を使うために(「ダムができちゃった以上その水を使わないとモッタイナイ」から)2,270億円を突っ込んで、わざわざ自然生態系を危うくするというのは正気の沙汰ではない。</li> <li>・ 長良川河口堰問題の重要な側面の一つは「計画がある以上、何が何でもやめない、建設する」ことの愚かさを示したことである。</li> <li>・ 「やめる勇気」がネイチャーポジティブにつながっていく。</li> </ul>